

ユネスコスクール通信

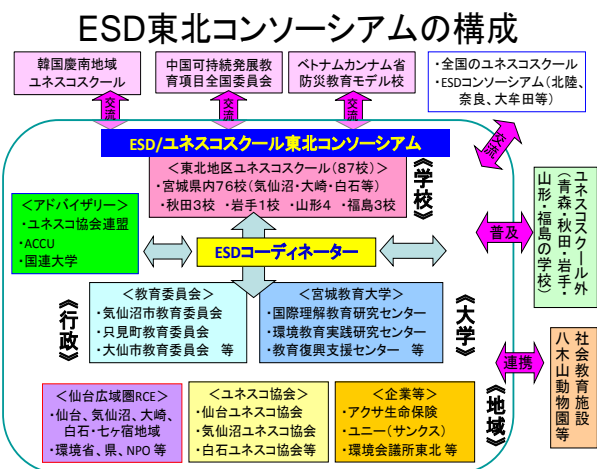
No. 5

宮城教育大学国際理解教育研究センター 2015年3月発行

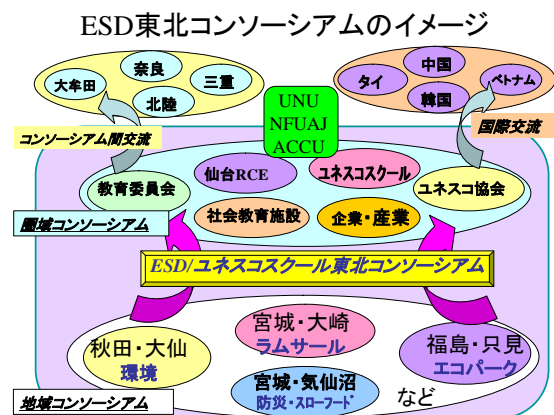
第5回目は、文部科学省の採択を受けて設立した「ESD/ユネスコスクール東北コンソーシアム」の設立会合及び成果発表会（2月10日に開催）の様子と、ESDの視点から復興教育に取り組み、昨年、OECD東北スクールとしてパリで発表するとともに、岡山で開催されたユネスコスクール世界大会・高校生フォーラムにも参加した福島県立安達高等学校の実践を紹介しします。

◆東北をESDの輪で！～ESD/ユネスコスクール東北コンソーシアム

宮城教育大学は、文部科学省の「グローバル人材育成のためのESDの推進事業」の採択を受け、今年度（26年度）から東北地方のESD/ユネスコスクール活動の更なる普及・推進を図ろうと「ESD/ユネスコスクール東北コンソーシアム」を設立しました。このコンソーシアムは、東北地方のユネスコスクール、教育委員会・行政、企業、大学、NGO/NPO、社会教育施設など多様な主体が参画・協働しながらESDを推進し、地域課題の克服と教育の質の向上に貢献すること目的にしています。



去る2月10日（火）には、仙台市で「結成会合・成果発表会」を開催しました。宮城県内はもとより東北各地から本コンソーシアムへの加盟に向けて多くの機関・団体・個人が参加しました。また、文部科学省、国連大学、日本ユネスコ協会連盟、ユネスコ・アジア文化センター等の国及び国際機関、そして、他地域のコンソーシアム（金沢・三重・奈良・大牟田）の代表者など、全国のESDのステークホルダー（推進者）が出席して活発な議論や提案が交わされました。東北では、これまで87校がユネスコスクールに認定され、民間ユネスコの発祥地であることからユネスコ協会も活発に活動しています。さらには国連の10年が始まった2005年に、国連大学からESDの地域拠点・仙台広域圏RCE（仙台、気仙沼、大崎、白石・七ヶ宿）に認定されるなど国内外のESD



をリードしてきました。一方東北には、世界自然遺産（白神）と文化遺産（平泉）、ユネスコエコパーク（只見）とジオパーク（三陸）、ユネスコ創造都市（鶴岡）やラムサール条約湿地など豊かな自然や文化の遺産がたくさんあります。このような地域の取組や財産を生かしながら、それらをESDの輪でつなぎ、「東北らしい个性的で調和のとれたESDコンソーシアム」の構築をめざしたいと考えます。

ユネスコスクール「持続可能な開発のための教育（ESD）」の取組

福島県立安達高等学校

1 復興教育

東日本大震災後、自分たちの生活環境や日本の課題を分析しながら、現状を乗り越えるための教育活動を展開している。福島復興を期した取り組みとして始まったが、福島を取り巻く様々な問題は、1つの要因を解決しただけでは解決できないような複数の課題が絡み合った事象である。この点は、日本や世界が抱える課題の複雑性と類似しており、福島の現状を解決する努力は世界の課題解決に通じる教育材料と考えている。



2 全校規模に拡大したユネスコスクール活動と持続可能な開発のための教育（ESD）

昨年度まで学年単位で実施していた「復興教育」およびESDが発展拡大し、今年度からは完全に学校全体の取り組みとなった。各学年で創意工夫しながら学習内容を開発し、3年間を見据えた系統的なカリキュラムに発展している。7月には全校生徒で学習成果を共有するための「ユネスコスクール公开发表会」を実施した。

・「情報」の時間を使ってのグループ学習 4月～7月 2学年全クラス

これまでの学習を踏まえてグループ学習・発表を行った。現状を認識しながら、理想とする未来とのギャップを考え、何が課題なのか課題を見つけ、その課題を解決するためにどのような考えや行動をとるべきかを議論しながら進めた。



・ユネスコスクール公开发表会 7月15日（火）全校生徒679名

2年生全クラス、3年生選択クラスの「情報」の時間でのグループ学習によってまとめられた内容について、プレゼンテーション形式の発表会を実施した。各クラスで事前にクラス内発表をして代表グループを選出し、評価の高い内容を全校生徒の前で発表することで、課題解決の仕方などを全校生徒で共有した。特に3年間の学習を経験した3年生は、積極的な質問をするなど会場は大きな盛り上がりを見せ、建設的な意見が多く出された。



3 ESD 世界大会高校生フォーラム東北代表校および地域交流会実施

11月5日～8日に岡山市で開催された「ESD世界大会」に東北代表校として4名の生徒が参加した。世界33カ国の高校生が一堂に会し持続可能な社会にするための討議を行った。関連行事として、11月4日には事前地域交流会を安達高校で行い、フランス・レバノン・バンラデシュ・ペルーの高校生が来校し全校生徒と交流をした。

4 今後の取り組み

現在、これまでの取組を検証し、次年度はより系統性を重視したプログラムとなるよう研究を重ねている。ESDを通じて、社会を取り巻く解の無い様々な事象に目を向けさせ、知識や経験を最大限に生かして最適解を探し出そうとする力を育成していきたい。グループ活動を通じて互いを理解し尊重する姿勢を育みながら、これからも生じ得る困難に対して決してあきらめない力を育成していきたいと考えている。